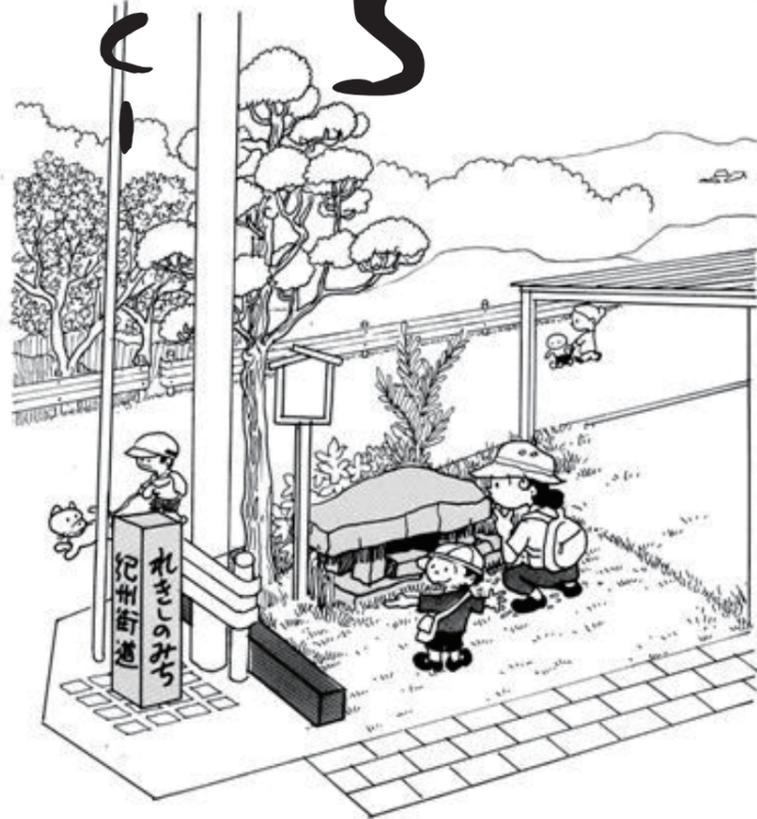


熊野(紀州)街道を歩こう

はんなんマップ 悠歩みち



企画・制作

まちおこし夢テラス

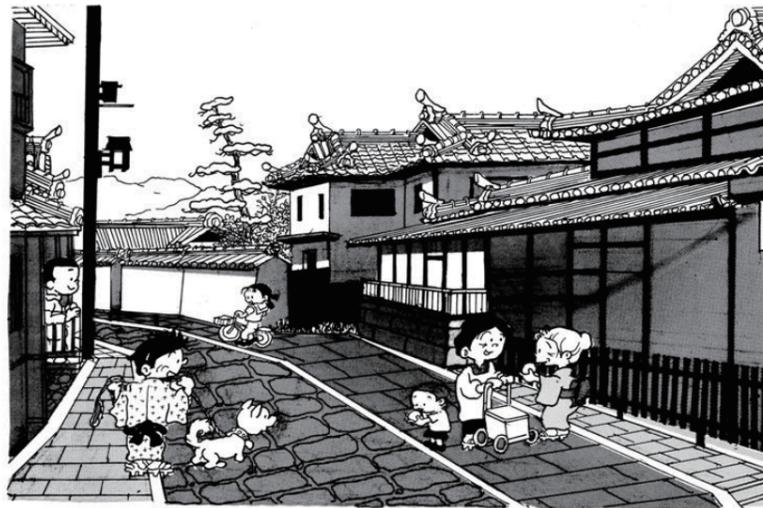
発行

阪南市教育委員会

熊野(紀州)街道

古くは「南海道」と呼ばれていましたが、平安時代中期には、京から摂津・和泉を経て紀州の霊場「熊野三山」へ向かう熊野詣の道となり、「熊野街道」とも呼ばれてきました。

大阪と和歌山を結ぶ紀州街道が、泉佐野から熊野街道に合流するため、泉南市、阪南市の熊野街道は江戸時代になると、紀州街道と呼ばれるようになりました。



山中宿のまちなみ

熊野街道沿いに家が建ちはじめ、江戸時代には全盛をきわめた宿場町が、山中宿です。大名が宿泊した本陣や、旅籠も20数軒あり、紀州徳川藩の参勤交代時には近郷より3,000人もの人馬が山中宿に集められ、炊飯、運搬、物資補給などの仕事にあたったといわれています。宿駅の面影は今も街道沿いに残されています。

また平成6(1994)年にはこの山中溪地区内の旧街道は「歴史の道」として整備されました。

イラスト：角田光和(阪南市在住)

この「はんなんマップ 悠歩みち」は、阪南市内で活動する市民団体や協力者の集まりである「阪南まちづくりネットワーク」の活動から生まれた「まちおこし夢テラス」が企画・制作し、教育委員会が発行したものです。阪南市に長く住みながら、このまちについて「知らないことが多い」「もっとこのまちを知りたい」「周囲の人にも知らせたい」という思いから、散策マップづくりを始めました。このマップを手に、昔のたたずまいが残る街道筋や街道脇の路地を歩き、また海岸や里山の自然に触れ、“新しい発見や出会い”を楽しんでいただきたいと思います。

このマップは文化庁の「文化遺産を生かした観光振興・地域活性化事業」を活用して編集しています。

お問い合わせは・・・阪南市教育委員会 生涯学習推進室
TEL072-471-5678 (内線2342) e-mail:s-gakusyuu@city.hannan.lg.jp

熊野(紀州)街道付近のみどころ

こうしんどう
庚申堂(来迎寺) 庚申堂には3基の庚申塔が祀られ、その内1基には青面金剛童子と三猿が刻まれています。庚申信仰とは60日に1回巡ってくる庚申の夜には、三尸(さんし)の虫が身体から抜け出し、天帝にその人の罪過を告げ、天帝は人を早死にさせるので、長生きするためには、庚申の夜は身を慎んで徹夜せよというものです。納庚申では粥の中に竹管を入れ、中に入った米粒の数により、豊作・不作を占う「粥占い」が行われます。

山中新家の埋め墓 遺体を埋葬するための「埋め墓」と墓石を建て供養するための「詣り墓」が別々になっていることを「両墓制」といいます。阪南市内では近年「両墓制」は姿を消し、かつての埋め墓には墓石が林立していますが、ここでは今も埋め墓がそのままの姿で残っています。

びわががけ
琵琶ヶ岸懸 熊野街道はここでは山中川の断崖となり、やっと人が通れるほどの道のため難所となっていました。琵琶ヶ岸懸の名は、熊野に向かう琵琶法師が道を踏み外して転落し、背負っていた琵琶が崖の途中の灌木に懸かっていたこと、また深い溪流の音が琵琶の音に似ていることによるといわれています。江戸時代になると紀州街道となり道を補強し、通行の安全を図りましたが、後に新しい府道が作られ廃道となりました。

じふくじ
地福寺・子安地蔵・枝垂れ桜 本堂は波太神社の神宮寺であった神光寺を明治18(1885)年に移築したもので、屋根は宝形造の均整のとれた姿を留めています。境内の子安地蔵は琵琶ヶ岸懸の南にあった地蔵堂王子から移されたものです。観音堂にある十一面観音菩薩像は長谷寺の観音のお告げにより、刻まれたという言い伝えがあります。本堂前の枝垂れ桜は、毎年春になると見事な花を咲かせます。

山中神社 八王子社と馬目王子社が祀られています。八王子社は承暦3(1079)年、紀州岡崎より山中に移り住んだ澤四郎善真が信仰していた八王子神を祀ったのが始まりといわれています。馬目王子社は九十九王子のひとつで、俗に足神さんと呼ばれ、山中集落の入り口付近に祀られていました。

山中関所跡碑 観心寺の法華堂造営のため、山中に関所を設け関銭を集めさせる長慶天皇の文書(正平24(1369)年)が残されていますが、その関所跡がこのあたりとされています。ここには永禄12(1569)年銘の供養碑があります。

かつらぎしゅげんどう
桜地蔵と葛城修験道 葛城山は大峰山と並ぶ修験道の霊山で、和歌山県友ヶ島から柏原市峠の亀ノ瀬までの山中に法華経二十八品を1品ずつ埋納したと伝えられています。山中溪には妙経信解品第四経塚があり、文安5(1448)年銘の石碑が建てられています。老木の桜があったことから桜地蔵と呼ばれています。

「境橋」の仇討ち場跡 土佐藩士広井磐之助は、父の仇、棚橋三郎を追って各地を廻るうち、棚橋が紀州加太浦の台場工事で働いていることが分かりました。当時、仇討ちは紀州藩では許されなかったため、紀州と和泉の国境、境橋で国払いをするので、仇を討ちたければ、橋の和泉国側で討つよう言い渡されました。文久3(1863)年、磐之助は見事に、ここで討ち果たしたと言われています。